

学校評価書

総社市立総社小学校
校長 高杉 整二
(公 印 省 略)

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実【やさしい子】

総社市教育大綱…心優しい子供

① 道徳教育、人権教育、総社っ子供応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。

- ・毎月、品格教育のテーマと関連した価値について道徳の授業を行った。道徳教育推進教師が示す指導のポイントや内容項目の扱い等を参考に児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行い、次年度に繋がるよう授業の流れ、ワークシート、板書はデータで残し、資料は教材ごとに整理し、継続した道徳教育の充実に繋がるようにした。
- ・6月の「いじめについて考える週間」や12月の「校内人権週間」等を中心に新型コロナウイルス感染症に関するいじめについての話や人権作文の読み聞かせ、人権標語に取り組むとともに「いじめゼロ みんな笑顔の 総小っ子」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。
- ・教室内や廊下に児童のがんばりを認める掲示物がたくさん見られたり友だちのやさしさやがんばりを記したくすの葉が1月末現在で1,000枚を超すなどPBIS活動の充実が互いを認め合う児童同士の絆や思いやりの心を育てることに繋がっている。来年度以降も本校の大きな柱として、この取組をさらに充実させていきたい。
- ・縦割り班活動を積極的に取り入れることにより異学年の関わりを大切にすることができた。

総社市教育大綱…礼儀正しい子供、総社を愛す子供

② 「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。

- ・「すきだ総社小学校」の「す」進んであいさつを重点目標とし、品格教育のテーマ「あいさつ」4月、「礼儀」1月は挨拶の強化月間としてする。また、あいさつを毎月第一週の生活目標に掲げ、継続して指導を行うとともに生活委員会や計画委員会、6年生ボランティアを中心にあいさつ運動の取組を行った。こうした取組の成果として朝だけでなく校内で出会った時、多くの児童が進んであいさつができている。また、地域にも目を向け、地域ボランティアへのアンケートを行い、地域の方へのあいさつができていない実態を把握し、登校する際、登校班で先頭からあいさつリレーをする取組につなげた。
- ・「き」きちんと歩行は、計画委員会が「廊下歩行」の計画を立て、掃除や下校の始まりには校内放送を行う取組をしている。安心・安全な生活ができることを目指している。
- ・「だ」黙って移動は、計画委員会や担当教員が放送で“だまって掃除”を促した。また、

頑張っている班を放送で称揚する取組を行ってきたところ縦割り清掃においては“だまって掃除”がほぼ徹底できるようになった。

2 健康・体力づくり【たくましい子】

③ 健康教育・特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進する。

・基本的な生活習慣の中で特に、重点として感染症対策とメディアコントロールの2項目を取り上げ、毎日朝・業間時に手洗い励行の放送を行い、習慣付けを図った。また、下校後には各教室等の消毒を行った。メディアコントロールについては、総社東中学校の年5回の定期考査に合わせて「メディアコントロール週間」に取り組んだ。児童には保健委員会による校内放送、家庭には学校保健委員会だより、保健だより等を発行して意識の向上を図った。

年間5回のメディアコントロール週間を中心に、減メディアや早寝早起き、睡眠時間に関する取組や家庭への啓発に取り組んできた。児童・保護者・教職員は目標の8OPに達している。継続した取組により意識が高まっており、引き続き中学校区で連携して粘り強く取り組んでいきたい。

④ 目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。

・児童と教職員のアンケート結果が中間期よりポイントが上昇している。休み時間には、タブレットを使用して良いこととしていたので、教室で過ごす児童の姿が多くみられた。そのため、12月上旬からタブレット使用のルールを変更した。3学期は運動委員会が企画・運営し全校でなわとび運動に取り組むことで、進んで運動する児童を増やす。

3 確かな学力の向上【すすんで学ぶ子】

⑤ 児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。

・今年度も学年、年齢層の異なる3人が1グループになり、互いの授業を見合い、振り返り、授業力の向上を図った。

⑥ 朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。

・朝学習の時間には基礎学力、「総小チャレンジタイム」には表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また、朝学習や「総小チャレンジタイム」には、学校支援ボランティアの協力を得て担任と複数で指導に当たることができた。その結果、6年生対象の全国学力学習状況調査や3～5年生対象の岡山県学力テストでは、どの学年も算数は平均正答率が上回り、これまでの取組の成果が見られた。来年度も①授業、②授業外（朝学習、総小チャレンジタイム）、③家庭学習の3本柱を軸により充実した取組を行い、学力向上を図っていきたい。

4 地域とともにある学校づくり

⑦ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。

・校長室便り、学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともにホームページ、総社市安心メールを使って情報共有を行ってきた。また、学校のホームページの充実を図った。また、各種会議等の場を使って、現状や学校としての考え・取組を理解していただけるよう説明責任を果たして

いきたい。

⑧ きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域、関係機関との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。

・総社東中学校ブロックの幼稚園、小・中学校と連携し、確かな学力の向上を目指し、学びの基盤となる力の向上、教職員の授業力向上、教職員のチーム力向上を柱に様々な活動に取り組んだ。今年度は、東中学校の定期考査に合わせたメディアコントロール週間の取組はできたが、今年度は、コロナ禍前に少しずつ戻すことができ、校種を超えたピア・サポート活動、幼小・小中の情報共有、東中オープンスクール等は実施ができた。今後も、東中学校ブロックの幼稚園、小・中学校とさらに連携を深め12年間を見通した取組を進め、児童の健やかな成長を促していきたい。また、保育園や、高校、大学との連携も進め、多くの繋がりの中で子どもたちを育んでいきたい。

2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	萱原 潤 (地域住民)
中川 麻衣子 (川崎医療福祉大学)	三上 啓子 (総社市教育支援センター長)
宮本由里子 (地域住民)	平松 桂子 (主任児童委員)
餅川 修 (PTA会長)	高見 郁 (PTA副会長)

3 学校関係者評価

「そう思う」4点、「だいたいそう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点として点数を合計し、全て4点の場合との割合(%)をポイント(p)として表した数値なので、「4点」にするか「3点」にするかで随分結果が違ってくる。90ポイントを目指すのは、かなり難しいので、ポイントをもっと下げて基準を80ポイントにするとか、児童・保護者・教職員のポイントの平均で判断するとか、検討した方がよいのではないか。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

本年度の成果と課題、学校関係者評価等をふまえて、学校経営目標を本年度より高いレベルで実現することを目指して、来年度も同様の学校経営目標を設定する。